

# 三学年だより

令和3年 8月26日 (木)

第6号

## 皆さんの挑戦は続きます

コロナウイルスの感染が拡大し、賛否両論の中で開幕した東京オリンピック2020。それでも、選手たちの活躍に一喜一憂した人も多かったのではないのでしょうか。頑張っても頑張っても、得られない結果もあります。見事にメダルを獲得した選手がいる一方で、言い訳もせず、結果を受け止めて会場を去る選手の姿も多くありました。勝負の世界は過酷ですが、そこに挑戦した全ての選手から、アスリートとしての誇りを感じました。

さあ、夏休みは終わりました。体力・気力を充実させて、実りある2学期へ、しっかりと歩みを進めましょう。



裏面に新聞記事を書きました。二学期初めに紹介する記事は、「囚人のジレンマ」(2021年7月19日新潟日報掲載)です。そもそもジレンマとは、相反する2つの選択肢から、どちらかを選ばなければならないが、どちらを選んでも不利益を被るため決め切れないでいる状態のことを言います。「囚人」にとってのジレンマが何かについては、ここでは省略します。(興味のある人は調べてください。面白いですよ・・・)。これを身近な問題に置き換えたのが

「教室掃除をサボると得なのか」という「あるある」問題。いつも真面目にやって損ばかりしてる！と不満に思っている(?)あなた。そして、サボり癖のある(?)あなた。本当に得なのか損なのか?!記事を読んであらためて考えてみましょう。ところで、この「囚人のジレンマ」。記事では、少し視野を広げてインターネット上の誹謗中傷問題や資源・環境問題など、現実社会における様々な事象にもあてはまることを指摘しています。みんながそれぞれ自分の「得」を考えて利己的に行動すると、結局誰も「得」をしないという経済学の理論。経済的な感覚が乏しい



私にとっては、経済学といわれると、難しく思考が停止してしまいがちですが、そもそも、経済活動には利益が関わるものなので、損得という感覚で、世の中の様々な現象を置き換えて考える「囚人のジレンマ」的な視点には、なるほどという親近感が沸いてきます。と同時に、目先の「得」に捕らわれがちな私たち。「罰」がなければ、よい状態に向かえない社会……。このような現状を目の当たりにすると、地球規模の大きな課題も、理論的には答えが分かっているが簡単にはいかない、ジレンマ的な難問なのだとは再認識させられました。

さて、皆さんはどのように考えましたか。経済学も囚人も自分には関係ないとは、思いませんよね。



◎今後の主な予定

日	予定
8/27(金)	進路ガイダンス (2~4 限)
8/30(月)~	就職模擬面接 (8/30・8/31・9/3・9/6・9/7・9/10)
9/2(木)	進路別個別指導 (7 限)
9/9(木)	進路別個別指導 (7 限)
9/15(水)	学びの基礎診断 (国・英)
9/16(木)	進路別個別指導 (7 限) ※就職試験開始 9/16~
9/21(火)	<b>木曜授業</b>
9/22(水)	人権教育・同和教育講演会 (2h)
9/29(水)	薬物乱用防止講話



◎今月の新聞記事…裏にあります。

あなたと友達が  
掃除当番になったケース

		友達への行動と気分	
		残って掃除	サボって帰る
あなたへの行動と気分	残って掃除	① 良 あなたと友達が2人で頑張り、気持ち良く掃除が終わった! 良 😊	② 最悪 あなたは1人で掃除させられて、最悪な気分... 最悪 😞
	サボって帰る	③ 最高 あなたは掃除をサボれたし、教室もきれいになってハッピー 最高 😄	④ 悪 あなたは掃除せずに済んだけれど、2人ともサボって帰ったから、教室が汚いまま... 悪 😡

きょうしつ そうじ  
教室掃除サボると得?

皆さんの学校に掃除当番をサボる人はいませんか。きっと「誰も掃除をやらない」という議論になってしまったりと真面目にやっている人が多いと思います。ところが、皆さん、なぜでしょうか。新聞家に話を聞きました。「自然にどうって解か。論か」というある議論で考えると、(報道部・小林千鶴)

よくかんがえて「楽」を選ぶ → 掃除しない

「2人とも帰る」 → 汚く気分悪く

もし友達が掃除してくるのなら、あなたはサボって帰ってしまえば、悪くない教室もきれいになるし「サボって帰る」は、近くに友達がサボって帰ってしまえば、自分一人掃除するのはいくらでもできる。それなら自分も掃除をしないで帰った方がましでしょう!!

「囚人のジレンマ」新潟大・高宮准教授に聞く



2人で掃除をしてあげれば、少しだけ楽になる。友達の行動に気を使わずにサボって帰るわけですが、それは悪くない行動です。悪くない行動なのに、なぜか「囚人のジレンマ」と呼ばれます。この議論の世界では誰も掃除をしませんでしたが、皆さんの学校でもほとんど掃除が行われていないと思います。悪くない行動に気が出たのはなぜでしょう。

自分の得考え行動 → 皆得しない

良は悪にはあるのに、この議論の世界にはないものがあります。その一つが「罰」です。高宮さんは「約束を破ったのに『罰』をする状況が罰」とします。罰の社会には法があり、貞節を破って帰しようとする人は厳しい罰を受けます。罰を受けて「罰」はくはないので互いに約束を守り、自然と①から④の状態に向かって「狂乱」に近い状態に取まると分析します。明確な罰前でなくても、ルールを守る心遣いが悪く疑問はあります。掃除の例でいえば、サボって帰ると先生に怒られたり、友達に嫌われたりする点です。「クラスで嫌われるよりもルールを守ろう」という心理が「罰」と、高宮さんは見ます。少し視野を広げ、インターネットの世界に目を向けてみま

ルール守り良い状態に

しよう。約束や決まり(ルール)を守らないことを罰する仕組みが書き込まれることがあります。「名前を出さなくてもよく、人間関係への影響を気にしないので売れやすい」と高宮さん。④の状態に近いです。高宮さんは「各論の法則や考え方が違うので、罰は取ったければ大丈夫な論議でも、自分の得だけを考えると、結局誰も罰をしないという議論がこの世界。ここから皆さんは罰を受けますか。